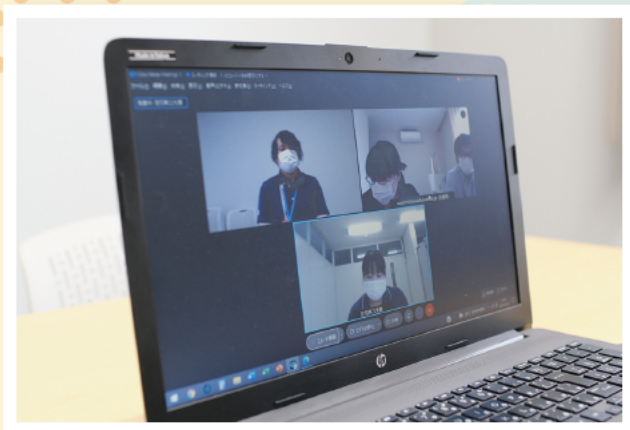


みんなはどうしてる!?

子ども福祉部門
3施設
座談会

心のつながりを感じる 見守り力



子どもの成長は保育者としての何よりの喜びです。しかし、保育は一筋縄ではいきません。子どもの行動を見て「どうしてこんなことをするのだろうか?」「どうやってかわかっていけば良いのだろうか?」と悩むこともあります。

イヤイヤ期、思春期、反抗期：言葉では知っていますが、子どもの性格や行動は人それぞれです。子どもが今何を考えているのかに思いをさせ、子どもとの心のつながりを大切にしながら見守っていきたいです。今回は足羽東こども園、足羽学園、フレンズあすわの職員がオンラインで座談会を開催し、日々の保育での喜びや悩みを共有しながら、心のつながりを感じる保育について話し合いました。

心の成長を感じて

CASE 1

〜足羽東こども園から〜

1歳児のAちゃんは保育士が「オムツを替えようね」と排せつの声掛けをしても、なかなか排せつ場所に行くことができません。

園での取り組みは…

児玉 遊びの途中に「もうすぐオムツを替えようね」「遊び終わってから行こうね」と徐々に声を掛けるようにしています。本人の気持ちに切り替わらない時は無理をせずに最後まで待ち、抱っこを求めるときは、**子どもの気持ち**をくんで、抱っこでオマルに行くこともありました。一人ひとりの気持ちを理解し受け止め



児玉保育教諭

所属 足羽東こども園(福井市東大味町)
幼稚園と保育所の機能をあわせ持つ幼保連携型認定こども園で1歳児クラスを担当。



黒木保育士

所属 足羽学園(福井市宿布町)
5歳から18歳までの障がいのある子ども達が暮らす足羽学園で、生活に密着した保育を行う。

CASE 2

〜足羽学園から〜

小学生のBさんは同じ園で暮らす年上の利用者の方に憧れています。近頃、年上の利用者の方の言葉遣いを真似て、今まで使わなかったような少し乱暴な言葉を使うようになりました。

園での取り組みは…

黒木 小学校では言葉遣いに変化がないとのこと。園での言葉遣いは身近にいる年上の人に対する憧れの気持ちによるものだと思うので、全部ダメと叱りたくありません。また、最初から止めてしまうと、本人の本当の思いが分からなくなってしまうので、ある程度は様子を見守っています。

ただ、本人は言葉の意味や使う状況を十分理解できているわけではないようです。意図せず、相手に怒られてしまうこともあります。そこで、本人と一緒にその言葉が「ふわふわ言葉」なのか、「ちくちく言葉」なのかを考え、紙に書いて居室の見えやすい場所に掲示しています。

関係のなかで育ちを支える

齊藤 園と家庭、友達に対するときと大人に対するときで行動や態度が変わるといのは相談の中でよく伺います。これらは『役割』という観点から捉えたりします。学校では『児

ながら、オムツ替えやオマルに行くことが「嫌なこと」にならないように気を付けています。

Aちゃんの言葉が増え、友達とのかかわりが芽生えてきたころには、友達のおマルでの様子を見て、「〇〇ちゃんおしっこでたね!」とオマルでの排せつに興味を持ち始める姿が見られています。

たくさんの人と話して いろんな視点で考える

黒木 利用者の方が自発的に動くのが一番良いと考えているので、私もふだんの保育ではできる限り本人のタイミングを待っています。また、どうして意欲や興味がないのか、ふだん本人にかかわっている職員だけでなく、別のフロアの職員にも聞きながら、いろいろな視点から考えるようにしています。

準備をして、 やってみよう!!

齊藤 大人の焦りやいら立ちが保育に少なからず影響があると考えると、保育者が元気でいることが大切ですよね。私はその日がうまくいなくても、振り返りをして、次の日はうまくいくといいなと思いつつ、その準備をするよう心掛けています。その子の好きなもの、やりとりの仕方、ご家族からのお話なども踏まえ、その準備を考えていくようにしています。

子ども福祉部門 3施設 座談会



齊藤作業療法士

所属 フレンズあすわ(福井市大和田)

保育所等訪問支援事業にて地域の園や学校等と連携しながら子どもの発達を支援する。



童・生徒』として、遊んでいる時は『友だち』として、家庭では『親子・きょうだい』といったように、その時々(社会集団)に応じての振る舞いがあると考えます。この『役割』は意識していたり、見えていたりするものではありませんが、理解を広げるための1つのアイデアかと思えます。

身近にいる年上の人に憧れているとのこと。まず、その年上の人の素敵なところを伝えていきますね。また、年上の人に話をして協力を得たり、話し合う機会(内容を紙に書いたりしながら)を持ったりしていくのがいいかと思えます。

本人と相手と職員と 3者で話し合う

児玉 アニメ等に影響を受けて言葉を使う子どもの姿は時々見られます。本人は相手を傷つけるつもりはないのですが、相手がアニメを知らない場合に驚いてしまうこともありま。そのような場面では叱るのではなく、お互いの気持ちを聞き、言葉を聞いた相手がいかに気持ちになったかを伝えて、職員と当事者の3者で話し合いをします。

叱るのではなく、 一緒に考える